

7月13日

岩洞湖で初夏の野原を歩いたよ



▲7月の野原にはウツボグサがいっぱい咲いています。ヘラオオバコや野アザミ、ムラサキツメクサも混ざって咲いています。

武士が矢を入れて背負うための道具の藪(うつぼ)に似ているから藪草といいます。



花が終わると花穂が枯れるので夏枯草(かきそう)と呼ばれることもあります。



岩洞湖はこんなところ

八幡平市内からは車で約1時間



ウメガサソウ

草みたいに見えるけど、実は「ツツジ」に近い仲間の木です。緑色の葉っぱを持ってはいますが、栄養の半分を菌からもらって生活しています。南はブータンから、北アメリカまで仲間が暮らしています。

お花の直径は8ミリくらい。とても小さいので踏まないように気をつけてね!!

お花は梅のような形をしています。少し前まではイチヤクソウ(右心ジ)の仲間に分類されていましたが、今はツツジの仲間になっています。



菌従属栄養植物の世界



▲ベニバナイチヤクソウ

なんだかむずかしい名前...

簡単にいうと、キノコのをかりて生きている植物のことです。

葉っぱが緑色の植物は半分は光合成、半分は菌から栄養をもらっています。もらうだけでなく、菌が必要な栄養を返してあげている植物もあります。

ママコナ ▶

お花の真中の白いところや、若い種子がお米の粒みたいだからママコナっていうそうです。



ギンリョウソウやサカネランは緑の葉っぱが無く、光合成をしません。完全に菌から栄養をもらって暮らしています。それぞれ、仲の良い菌は決まっています、ベニタケやナラタケなどと仲良くしています。

山から連れてきてお庭に植えても、仲良しの菌がいけないので、生きることができません。

サカネラン

ランの仲間はほとんどが菌と一緒に暮らしています。



ギンリョウソウ

↓これは種になったところ

ゴケに注目してみた

へえ～、君たちそんな名前なのかー。



ずっと見てたら...
いつかモゾモゾ重かき出して
お葉りしたりしてるんじゃないかしら？



↑これはゴケじゃなくて地衣類。藻類と菌類が一緒に生活しています。(カラタチゴケやキゴケの仲間)



ホソバトウゲシバ

ゴケみたいなけど、シダの仲間です。

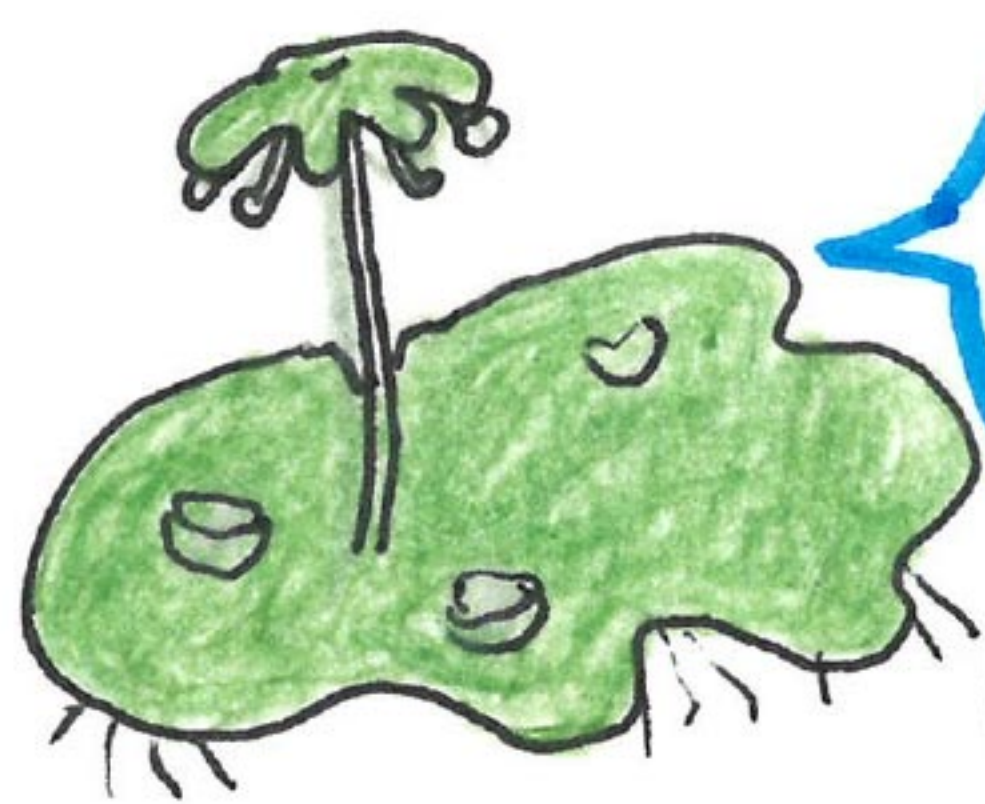
シシゴケ

糸田い緑色の濃い毛みたいな所だよ。



ナミガタチゴケ

蘚も苔もゴケ。



苔類

(ゼミゴケなど)



蘚類

(スギゴケなど)

せんたいるい
ゴケのことを難しい言葉で「蘚苔類」といいます。ゴケにも特徴によって仲間があって、蘚類は茎と葉の区別がはっきりしているもの、苔類はべったりした一枚の茎と葉が区別できないもののことを言います。孢子嚢の形が傘形と種子形が違うのも特徴です。



ウマスギゴケ



ネズミオゴケ

トヤマシブゴケ



セイタカ
スギゴケ



↑ これも地衣類。
(ハナゴケ科の
仲間です。)

よく見ると ▶
いろんなコケが
1か所に
暮らしています。

